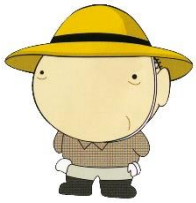
いのちの森植樹祭 in おたる奥沢水源地 Vol9



公益社団法人
国土緑化推進機構
National Land Afforestation Promotion Organization

≪この植樹祭は緑の募金交付金による事業です>

2021 年 10 月 2 日　3 日

主催：北海道千年の森プロジェクト

助成：(公社) 国土緑化推進機構　ライオンズクラブ国際 331-C 地区
　　小樽ライオンズクラブ　　小樽ロータリークラブ

共催：(一社) 小樽青年会議所

後援：　北海道後志総合振興局　小樽市　小樽市教育委員会　小樽商工会議所　(一社) 小樽観光協会
小樽ロータリークラブ 小樽南ロータリークラブ 小樽 4 ライオンズクラブ
北海道教職員組合小樽市支部　北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部　小樽市退職校長会

http://sennenno-mori.com

15年目21回目を迎える“北海道”千年の森プロジエクト主催の植樹祭がおたる奥沢水源地で行われた。コロナ禍の中での植樹祭が二年も続くとは思ってもいなかったが緊急事態宣言が出せれた9月より日程を 10 月に変更し、感染予防を徹底した中、実施された。
コロナウイルスは猛威を振るい世界の人々の日常の生活を奪っただけでなく 300 万人以上の尊い命が消えていった。それだけに今年は昨年以上に感染予防に気を付けて実施した。
コロナ禍の中での植樹祭は大きな意義がある。コロナ騒動はここ一、二年で収束していくであろう。しかし、地球の温暖化は待ったなしの状況が続いているからである。
2006 年にアメリカ合衆国第 45 代副大統領ゴア・アリが「不都合な真実」という本を著作して、地球の温暖化の脅威を提言した。しかし、時の政治家はゴア氏の売名行為だと決めつけられ、世の人の脅威を煽るものだと非難した人物もいた。しかし、近年の異常気象による災害の多発に寄る大きな被害をみて、地球の温暖化に対する政治姿勢が変わってきている。“北海道”千年の森プロジエクト」が翌年の 2007 年に発足した意義は大きいものがある。
今年になって日本においても脱炭素社会を目指すことが国の方針となり、風力発電などエネルギー産業にも注目が集まってきている。これは産業界だけでなく、国民一人一人が地球の温暖化に強い関心を持ち、自分たちでできる温暖化対策を実施していかねばならないことである。日常の生活においては、無駄な電気を消し、水道の水の出しっぱなしを無くし、停車した車はエンジンを切るなど小さなことから実施していかなければならない。
その意味においてコロナ禍の中でも植樹祭をしていくことは、地球温暖化を防ぐ事への関心と啓蒙を図る意味において重要なものとなっている。　過去にあったことが今現れている。
産業革命以来文明の発達は私たちに快適な生活をもたらした。しかし、その陰に化石燃料と言われる石炭や石油から生まれる二酸化炭素の増加が地球の温暖化の要因になっている。過去が今であるように、先にある未来も今造られていく。今何をすべきかが問われてくるのだ。その意味において「なぜ今、木を植えるか」という命題を理解することが今大切なのである。
二酸化炭素は地球から宇宙に発散する太陽熱を吸収して地球の温度を平均 15℃に保ち私たちの命を守ってくれる。この二酸化炭素がなければ地球の温度は平均マイナス 19℃にもなり、私たちは生きていかれない。この私たちの命を守る二酸化炭素がいまや悪者になっている。
二酸化炭素を吸収する森林が地球の温暖化に大きな影響を与えている。
地球の 30%を占める森林も地球の温暖化の大きな要因になっている、それは私たちの快適なくらしのために、森林が伐採されているからである。国連の調査によると毎週、東京都の面積と同様の森林が消滅している。
世界の森林の面積は約 40 億ヘクタールで陸地の 31%を占めている。その内 30%がすでに消えて 25％が消える危機にさらされている。原生林がそのまま残ってはわずか 15％に過ぎない。
古代から日本人は森林を大切にしてきた。鎮守の森と言われるのは神社があり、森との共存を神に誓っているからだ。しかし、近年人口林が多くなり、森の生態性が大きく変わってきている。人間が必要とする桧や杉のような針葉樹が多くなってきたのだ。土砂災害のなどの要因は、広葉樹と針葉樹のバランスが崩れてきているからだ。今私たちに必要とされているのは自然の森、鎮守の森の再生である。
地球の命を守り、孫やひ孫が安心して暮らせる地球にしていかねばならないのだ。これらの意味において21回目の植樹祭が開催された。

10 月 1 日（金）【設営①】

空には白い雲に覆われているが青空も見える絶好の作業日和だ。奥沢水源地は大きな木々が重なり合って緑の山をつくっている。その緑の木の葉に交じって真っ赤な葉っぱの木が見える。「漆の木」だ。漆の葉の汁は皮膚をかぶれさせる。うっかり近づけない。

森閑とした水源地に車が続々やって来る。もうすでに二つのマウンドが造られている。縄を縛る杭も打たれている。今年はこのマウンドを 11 グループに分かれて、植樹をする。

作業のために駆け付けたメンバーが揃ったので円陣になって朝の打ち合わせをする。山川副理事長が「ご苦労様です。天気に恵まれて良かったです。3 日の植樹祭に向けてみんなで協力し合って準備をしましょう」と短い挨拶をする。

荒木副理事長から作業の手順が話される。まずは車で椅子や机やテントなどを運んで来るグループとマウンドでの作業に必要な縄の束をつくる作業だ。

今年も若き小樽 JC のメンバーが共催事業として参加している。作業服に身を包んだ若者の姿は心強い。北海道千年の森プロジェクトの創立から参加している田中理事、井形理事や政寿司の竹田さんも参加されているので作業手順は心配ない。

マウンドのそばに乾いた牧草ロールが突っ立っている。この牧草が雨や雪などで苗木が弱らないように敷き詰められる。この牧草を抑える役割が縄なのだ。縄の寸法が計られて作業しやすいように縄の束ができていく。

蘭越の渡辺理事がやって来る。一年ぶりの再会だ。ベテラン中のベテランだ。今年は女性お参加が紅一点堀口さんだ。　朝里の植樹祭からの参加している。後期高齢者の年だろうが若々しく縄の作業をしている。この植樹の意義を理解して行動に移すエネルギーはどこから生まれるのだろう。この行動に感心する。参加者の歩く道の雑草の草刈りに小学校元小学校校長の荻山先生が自宅から草刈り機を持ってきて作業している。みんな役割を覚えていて作業に時間に無駄がない。

縄の次は牧草ロールを崩してマウンドのそばに置く作業だ。面白いようにロールが崩れていく。明日は雨の予報なので、牧草は青いビニールシートで覆われる。

マウンドのそばには植樹作業に必要なシャベル、ブラシ、水槽、バケツがセットされた。水源地の下の天神貯水場から水が運ばれてくる。小型トラックのタンクから水が水槽を満たしていく。それをマウンドに運ぶのは力のある小樽 JC たちである。

昼食はカレーライスだった。緑に囲まれ空気の美味しい水源地での食事は、しばしコロナの怖さを忘れさせてくれる。

午後からは引き続きマウンドの作業がスムースにいくように用具の点検や水槽の水入れや牧草をビニールシートに包んでマウンドのそばに置く作業となった。

苗木がグリーンワールドからヤマザクラやアオダモの数種類が運ばれてくる。そこに島牧の杉山理事からミズナラなどの主木が届く。よくこのように育てたものかと感心してしまう。今年は 1500 本の木を植えるのだ。

苗木の種分けは蘭越の渡辺理事がリーダーになって、その指示に従って作業が進む。作業をしていると汗ばんでくる。秋風が心地よく感じる。

苗木の種類が多いので、種類の数を確認しながらケースに収めていく。このトレイをマウンドに運ぶことでマウンドの作業が終了となる。
今日は 26 名の力が作業をスムースに進行させてくれた。明日の天気が雨マークなので、できる限り作業を進めていった。参加者の為ののぼりの旗や椅子や正面テントなども運ばれてきている。今年は東京からコロナ禍でマジエル会の参加がないのが一抹の寂しさを感じる。作業が終わりとなる。中村理事長からご苦労様との挨拶があり、荒木副理事長の明日の予定を聞いて散会する。

10 月 2 日(土)【設営②】

空は曇り空で雨の心配はないようだ。昨日のメンバーに加えて今日は女性の参加があった。井形理事、蘭越の渡辺理事夫人、それに札幌、長塚理事が小樽商大生の長女を連れての参加だった。今日も浜口夫人がきている。明日の植樹祭の準備の作業が始まる。
昨日のように円陣を組み中村理事長の挨拶を受ける。理事長は「宮脇先生との出会いが植樹への情熱に火が付いた。」と話し、小樽 JC のメンバーに対して若い人の参加が嬉しいと述べ、今日もよろしくお願いしますとの挨拶だった。
荒木副理事長は作業の手順について、昨日の作業でおおかた出来上がっているので、今日はマウンドの雑草を抜く仕事と、テントやのぼりを立てる仕事をしてほしいと話された。早速二手に分かれての作業となった。　今日のお昼の弁当には政寿司さんがマグロを提供してくれる。マグロの解凍の名人竹田さんが持ってきてくれたのだ。このマグロはスーパーでなどではお目にかかれない高級マグロなのだ。美味しくてみんな笑顔で昼食を終える。
一方、山本事務次長が千歳まで藤原先生を迎えに行き、山川副理事長と政寿司で待ち合わせて、昼食兼ねて打合せを行い、その後、会場入りした。ところがそのころから会場は雨となった。
植樹会場には昼食を終えた大勢の会員が雨の中、藤原先生を待っていた。藤原先生は笑顔を見せて早速マウンドに向かった。藤原先生はこれまで植樹したマウントの木々の生育状態を視察した。

① 20017 年に植えた苗木がすごく成育が良い。
② 鹿による食害が目立つので対策が必要。高さ 2 メートル程の柵を来春に設置してほしい。特に桜やカエデなどの樹の食害が目立つ。
③ ポット苗は成長の良いものを使い、成長が悪いものは無理して使わないこと。植樹後の成長が全く違う。ポットに穴を開ける。成長に必要な日光と空気と水が肝心。
④ 来年からクルミを入れない。他の樹の成長を妨げるから。

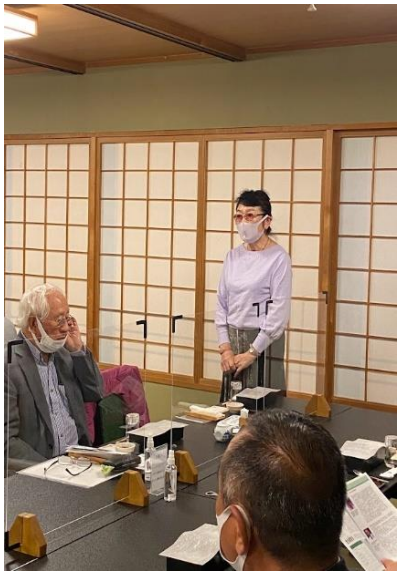
との指導があった。
藤原先生は住吉神社の船上山を見たいという。そこでの指摘は植えていないニセアカシアやヤナギやオニクルミの木の成長が早く、ミズナラなどの植樹した木に日光が当たらず、光合成の妨げをしているので、伐採や枝払い等の作業が必要である。併せて、蔦の伐採も毎年行う必要がある。
水源地と住吉神社での視察は 3 時間余に及んだ。

10 月 2 日【前夜祭】

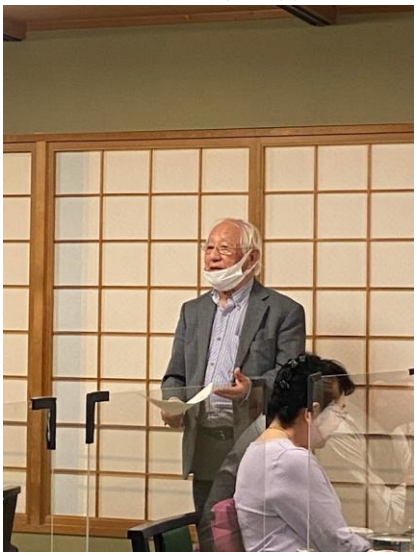
今年の藤原先生を囲んでの意見交換会は七月に亡くなられた宮脇昭先生への弔意を示す黙祷からの始まった。中村理事長は挨拶の中で宮脇先生を偲んで先生のエピソードを話し先生の食べるエネルギーが旺盛でそれが植樹に向かう情熱の原動力になっていることを話された。

藤原先生は挨拶の中で、宮脇先生はお亡くなりになってもその命は失われず北海道千年の森の運動に生き続けていると話されていた。更に地球の温暖化が深刻になるにつれて世界の各国が植樹の宮脇方式を評価していることも話され、ヨーロッパの国々が小樽の北海道千年の森の活動にも関心を寄せているという嬉しい話をしてくれた。正に宮脇先生が「北海道から世界に植樹を発信しよう」と言っていたことが現実になっているのだ。

今年度の前夜祭はコロナ禍の中で出席者の人数を少なくしてこじんまりした前夜祭となった。しかし、中村理事長を初めとして特別後援を頂いている、ライオンズ、小樽ロータリークラブ、小樽青年会議所の皆さんの植樹に対する熱い熱意は例年と変わらないものがあった。



特に四つの小樽のライオンズが植樹に向けて一つになり、今や地球の温暖化を防ぐ植樹活動がライオンズクラブの重要な命題になってきていることが嬉しく感じた。ロータリークラブとライオンズクラブ会員の皆さんは社会の指導者としての立場にあり、志を一つにして地球の温暖化に向けて、北海道千年の森の活動を全面的に応援して下さることは頼もしい限りである。。



この北海道千年の森の活動が 15 年目を迎えることが出来た要因の一つに小樽青年会議所の力があるのだ。若い会員のほとばしるエネルギーは千年の森プロジェクトの推進力となり活動を活発にしてくれている。今年の理事長の初めの乾杯の挨拶の中にそのエネルギーを感じた。また中村衆議院議員の秘書の肩が何か困った時は中村議員が力になるというメーセージを送ってくれたことも嬉しいことだった。前夜祭は和やかな内に終わりとなった。山川副理事長の終わりの乾杯の挨拶で過去は今であり、未来も今造られている。今を大事にして明日の植樹祭を成功させようと話され乾杯をして散会したのだった。

10 月 3 日(日)　①　リーダー講習

新型コロナウイルスの影響により延期となった植樹祭を空いっぱいに青空が広がり最高の植樹日和の中迎えた。朝 8 時半ほんの少し緑の葉っぱが黄ばんだ奥沢水源地の植樹会場に講師の藤原一繪先生が到着。例年行なわれるリーダー講習が始まった。

　各班、2名のリーダーが藤原先生を囲む。先生は疲れも見せず、淡々と詳しく植樹の手順を語っていく。特に苗木の扱いについては丁寧に詳しく話された。苗木の持ち方は基本中の基本であ

る。決っして苗木を引っ張ったりしないこと、手の平に苗後の底を受け止めて静かに根の張った苗を取り出すこと。

　苗木の命を守るには、まず水をたっぷり吸わせなければならない。二人一組になり約 10 を数えさせ全体の苗に水を吸わせる。また土を掘り苗木を植える作業には空気の存在が大切なことを話される。

基本的な話を終えて、リーダー研修のマウンドでの作業となる。水をたっぷり吸ったトレイの苗木をマウンドに間隔を考えて置く。作業は上から下へと行うことが原則だ。

　苗木が競えあって成長していくために苗木を置く時は同じ苗木を並べないことだ。一平方メートルに四本の苗木が置かれていく。リーダーはマウンド全体のバランスを見ながら指示をしていく役目だ。さすがリーダーだけあって、藤原先生の指導通り植樹をしていく。

　苗木を植え終えると牧草を敷いていく作業だ。この牧草が土砂で流されるのを防ぎ、低温を防ぎ栄養となる。牧草はたっぷりあって、20 センチぐらいの高さで敷かれていく。これは手渡しの作業となる。この手渡しが心をつなぐ連帯感を高めていくことになる。

　苗木は見えにくくなるほど牧草が敷かれる。この上を縄が抑える作業に移る。縄は牧草を保護してくれる。リーダーの仕事は手順を誤らず、苗木がちょうどよく植えられているのかを全体を通して見ることだ。　藤原先生の指導で、苗にも命があり、優しく扱い、育ちやすい環境を作ってあげることが大切であることが良く理解できた。

⑵　開会式

　秋晴れの爽やかな日となった北海道千年の森植樹祭の開会式には三々五々146 名の市民が集まってきた。来賓は中村裕之衆議院議員、迫俊哉小樽市長、鈴木喜明小樽市議会議長の三人で開会式は簡素化に行われた。

　伊藤事務局次長の司会で中村理事長の挨拶となった。まず参加者にお礼を言い、今年の 7 月

お亡くなりになった宮脇昭先生との出会いを話され、先生の命は植樹した小樽の木に宿されていることを語って亡き先生を偲ぶ挨拶となった。

中村,迫両氏の挨拶は北海道千年の森の活動が 15 年目を迎えたことを褒め称え、宮脇先生の植樹の指導に「交えるまじえる」という言葉から、違う種類の木が寄り添う競い合って大きく成長していくことに触れ、現代の多様化の時代にふさわしく素晴らしいことだと高く評価されていた。

藤原先生は異なった木々が競い合いお互いに我慢して成長していく様子を語り、人間も多様な価値観を認め合う中で切磋琢磨して生きていくことが大切であることを話された。そして今日植樹する木々の種類を来賓の方々と一緒に三回唱えて植樹祭の気分を高揚させてくれていた。　司会者からリーダーの紹介があった。3 班のリーダーは中村理事長が行う。理事長が率先してリーダーになって活躍する姿勢が宮脇先生の指導の姿を象徴しているようだった。　全員で記念写真を写す。例年だとここで中村理事長の手話での童謡「ふるさと」の合唱があるのだがコロナ禍で在る為、割愛された。助成頂いた国土緑化推進機構共催の写真展も併設され参加者の興味を得ていた。

③　植樹祭

開会式後2グループに分かれ時間差で密にならないよう配慮した中で植樹が始まった。
まず各リーダーは藤原先生に教わった通りの説明をしている。苗木に水をたっぷり吸わせことから始まった。植物にとって命を育むのに必要なものは太陽の光であり水と空気である。木の葉で炭酸同化作用をするからだ。また土の中には植物の栄養に欠かせない窒素、リン酸、カリなどの栄養素も水に溶けこんでいる。

参加者の中には植樹活動の体験者が多くいて、作業を速やかにしてくれる。苗木が並べられ土に穴を掘って苗木を植える活動が始まった。マウンドの上から下へと苗木が植えられる。この作業も一人でやっていたら時間がかかるがみんなで協力し合うことでの成果は見事である。

宮脇先生は命の森づくりを提唱して、苗木にも命があるのだから優しく扱うことを教えてくれた。中村理事長は愛を込めて、「立派に大きく成長して」と願いながら植えることの大切さを話されていたがみんな苗木を大事に扱っていた。

牧草は豊富にある。手渡しでマウンに配られる。たちまちマウンドは牧草でうずめられた。牧草の間から苗木が顔を出している。そのマウンドに水槽の水をバケツで掛けて作業は終わりとなった。

立て札に名前を表記する。植樹活動記念の印だ。「いのちの森植樹祭 in 奥沢水源地」の横断幕の後ろに並んで記念写真を写す。リーダーから終わりの言葉があり昼食へと向かう。

今年も昼食は政寿司さんの美味しいイクラたっぷりの鮭のおにぎりだ。豚汁まで用意されている。お茶をもらい席につく。島牧の杉山理事や真狩の渡辺理事の顔も見える。植樹後の昼食をみんな美味しそうに食べている。コロナ過での開催ではあったが遠方からの参加はとてもうれしく楽しい時間が共有できた。参加者も会員の企業や家族を中心に147名と沢山の参加者で、なかなか人間同士のコミュニケーションが取れない時代、参加者の笑顔が印象的な植樹祭となった。

おたる奥沢水源地の緑の山々に囲まれての植樹祭は新型コロナの恐ろしさに負けないで実施された。コロナ禍でなければ、マスクなどしないでもっと盛大に植樹を楽しめたであろう。
来年こそはマスクを外し、まじぇる会の仲間や多くの子ども達と語り合いながら、手に手を取って開催したいと思う。天国にいる、宮脇先生も笑顔で植樹を見守って頂いた事だと思う
参加いただいた皆さんに感謝すると共に、たくさんの準備をお手伝いいただいたスタッフにも感謝し、15年目の植樹祭を終わりにした。

【記:副理事長　山川】

	植樹樹種　一覧		年度	2	3		4		5		6			7		8	9	10	11	12	13	14	15		
	植樹祭回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21		
	植樹年度		H19	H20	H21		H22		H23			H24		H25		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	トータル	
			2007	2008	2009		2010		2011			2012		2013		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021		
	会場		長橋小学校	朝里ダム①	朝里ダム②	船上山①	朝里ダム③	船上山②	船上山③	高島小学校	船上山④	高島小②	幸中央	船上山⑤	水源地	水源地②	水源地③	水源地④	水源地⑤	水源地⑥	水源地⑦	水源地⑧	水源地⑥		
	参加者数		326	1,462	1,022	162	622	126	302	322	262	562	322	224	482	224	212	202	212	172	172	142		7,532	
	植樹本数／人		3.7	3.6	4.9	7.4	5.1	9.6	11.2	5.3	7.8	2.7	4.7	5.4	10.5	8.9	9.4	9.9	9.4	11.4	12.3	10.7	#DIV/0!	6.4	
	植樹本数		1,205	5,200	5,000	1,200	3,200	1,210	3,380	1,694	2,040	1,500	1,510	1,220	5,070	2,000	2,000	2,000	1,990	1,960	2,124	1,524	**1,365**	**48,392**	
1	ミズナラ	高	350	1,180	1,650	360	1,200	470	840	580	1,000	660	755	350	1250	366	792	820	845	630	790	954	**544**	16,386	16,386
2	クリ	高	5	800	200	200	270	120	270	265	100	60	70	30	80	150				20	30	40	**60**	2,770	34%
3	イタヤカエデ	高	5	450	400		50		170	98	200	60	60	80	360	204	214	47	230	160	230	120	**180**	3,318	↑ﾐｽﾞﾅﾗ
4	ナナカマド	高	285	350	300		50		100	36	105	30	24	80	400	184	37	33	100	140	90	80	**52**	2,476	
5	カシワ	×		400	200	90			100	51	70	60	30	55	40	169						9		1,274	
6	ｺﾌﾞｼ/ｷﾀｺﾌﾞｼ	高		400	250			20	150				50	40		33	70	70	70					1,153	
7	オオヤマサクラ	高												50	410	33	55	55	50	10	60			723	
8	エゾヤマザクラ	高	8		50	50	50		250	22	200	120	100	5						65		8	**60**	988	
9	ｼｳﾘ/ｳﾒﾐﾞｻｸﾗ	高												10		33	50	50	122		60			325	
10	コシアブラ/キハダ	高												10		33								43	
11	シナノキ	高	5	350	220		20	20	70			24	50	50	45	30	30	30	30	60				1,034	
12	アオダモ	高		350	250							24	50			33	40	40	40				**60**	887	
13	カスミザクラ	高		100	100		110			30		20												360	
14	ハルニレ	高	5	20	20				100		80	24	75	30	250		50	50	50			1		755	
15	ハウチワカエデ	高	15	20	60	30						24	30	40	250	33	30	30	30					592	
16	ヤマモミジ	高	7	20	20	130								50	45	33	30	30						365	
17	イヌエンジュ	高	5		20		50		100							30	30	30	30					295	
18	トチノキ	高	5							52	40	50	20	40	50	173	142	275	16	280	310	205	**79**	1,737	
19	アズキナシ	高							100	30				50		33	50	60	50	60		2	**67**	502	
20	ホウノキ	高		20	40				50				6	30		33	50	60					**3**	292	
21	カツラ	高						20		20	75				200					50			**60**	425	
22	オニグルミ	高									30	40				50	60	60	70				**40**	350	
23	アカシデ/ハリギリ	高		20	30											30		50						130	78%
24	ミズキ	高												30		30	50	60	50					220	37,723
25	ヤチダモ	高						10								39								49	↑高木
26	ヤマハンノキ/ブナ	高	5																		54	50		109	
27	クルミ	高	5																	35	70	55		165	(みずなら含む)
28	ガマズミ	亜	70	150	200	50	240	140	150	50	20	35	20		200		30	30	30	70	50			1,535	
29	ツリバナ	亜	70	20	200	60	160	40	150	40				10		15					30		**40**	835	
30	ヤマグワ	亜	100	250	120	50	160	40						30		33								783	
31	マユミ	亜			120	40	160	40	50	20	20	35	10	20	250	15	30	30	30	70	30		**40**	1,010	
32	オオカメノキ	亜							100	30				20		32	40	40	40	60				362	10%
33	カンボク	亜						20	50	50				20					50		50			240	5,015
34	ミヤマガマズミ	亜							60	50				20		30					50		**40**	250	↑亜高木
35	ノリウツギ	低	70	150	200	50	270	30	100	50	40	65	45	10	230	28	40	40	40	130	50		**40**	1,678	
36	タニウツギ	低	70	150	200	60	150	50	200	60	20	45	30	10	320						50			1,415	
37	アキグミ	低	70		150		160	40											7					427	
38	エゾユズリハ	低						20	70	20		24	30	10	250	30					30			484	
39	ドウダンツツジ	低				30	50	50				30												160	
40	エゾアジサイ	低							100	50	20	35	25		220	5	10	10	10	120				605	
41	ガバレンゲツツジ	低					50	50																100	
42	ユキヤナギ/ニシキギ	低							50	50											50			150	
43	ガクアジサイ	低									20	35	30		220									305	
44	ｴｿﾞﾑﾗｻｷﾂﾂｼﾞ	低	50																					50	
45	ｹﾔｷ/ｼﾓﾂｹ	×						10		20														30	12%
46	ツノハシバミ/ニトリザクラ	×						10		20						60					40			130	5,654
47	ハクウンボク	×						10						40			70							120	↑低木
	植樹本数		1,205	5,200	5,000	1,200	3,200	1,210	3,380	1,694	2,040	1,500	1,510	1,220	5,070	2,000	2,000	2,000	1,990	1,960	2,124	1,524	**1,365**	**48,392**	48,392

※　高木は10m以上　亜高木は5m～10m　にて定義

"北海道"千年の森プロジェクト